

盛岡地区交流会報告

日時：2025年4月30日（水）13：30～15：30

場所：アイーナ6階団体活動室2

参加：藤原世話人、石川世話人、難病連 根田、端坂（記）
他5名

内容：

（1）近況報告

Aさん

- ・眠れないことが続いているため、睡眠導入剤を処方してもらった。服用すると夜中にトイレに起きた時にふらつく。起床後もボーとして頭が働かないので休日前にだけ服用するようにしている。
- ・立っているのが辛くなってきた。
- ・言葉が出にくくなってきた。
- ・10年ぶりゴルフを再開した。18ホールまわることが目標である。

Bさん

- ・パーキンソン病歴13年。眠れないことが多い。
- ・免許を返納した。
- ・週2回リハビリをしている。

Cさん

- ・神奈川に住んでいる息子はパーキンソン病と診断されて3年目。現在42歳。支部長の話が聞きたいということで本日の交流会に参加する予定だったが、鬱が酷くこられなかった。調子が良くなったら支部長の話を知りたいといっているので、支部長に話を聞いてもらいたい。

→私もあって話を聞きたいと思っているので、連絡ください。

Dさん

- ・娘が若年性パーキンソン病。娘からヘルプがあり北海道から岩手にきている。動作が遅く普通の人のおよそ2倍は時間がかかる。
- ・NHKでiPS治験の結果を聞き、早く治療が受けられるようになるといいとおもった。

→2018年に京都大学病院で7名を対象に治験を始めた。iPS細胞移植による癌化の問題があり、安全性を確認することが主目的。6人について2年間にわたり、経過を調べたところ、いずれの患者でも移植された細胞からドーパミンが作りだされていることが確認され、4人で運動機能の改善が見られた。現在、大手製薬会社「住友ファーマ」が国に製造・販売の承認申請の準備をおこなっている。海外で数十人規模の治験も始まっている。

順天堂大学の服部特任教授はすべての患者が劇的に良くなっているわけではない。今回の治験では患者数が少なく、わからない点も少なくないので今後効

果的な方法を明らかにする必要があるとっている。が我々としては期待をもって経過を見守りたい。

Eさん

・毎日、散歩している。今日も5km位歩いてきた。

難病連 根田

・端坂支部長、リハビリは大事ですよ

→薬とリハビリはパーキンソン病治療の両輪である。薬の増量や種類を増やただけでは、動きは良くなることは私の経験上実感している。私は薬を服用後一定時間経過（薬の効果がでている状態）後に毎日同じコースを散歩している。疲れていても同じ時間に散歩したくなる。薬を飲んだ後ゴロゴロしていると動けない。それだけリハビリ（身体を動かす）が大事である。旅行など楽しみがあると身体も自然に動く。前向きに楽しく生活することが大事である。

ひとりで悩みを抱えていると悪い方向、悪い方向を考えてしまうので同じパーキンソン病の人と話をすることが大事と思う。

次回予定

日時：2025年6月25日（水）13：30～15：30

場所：アイーナ6階団体活動室1